

OSDL (03-5288-8777)

## 「キャリアグレード向けLinux (CGL)」、 「データセンターLinux (DCL)」、 「デスクトップLinux (DTL)」の各要求定義を公開

エンタープライズでのLinux採用をサポートしているNPOの「OSDL」は、コミュニティと産学界との協調連携を図りながら、OSDLの検討部会（ワーキンググループ）が取り組んでいた「キャリアグレード向けLinux (CGL)」、  
「データセンターLinux (DCL)」、  
「デスクトップLinux (DTL)」の各要求定義を公開した。

### 「CGL 3.0」の公開により、通信インフラ業界でのLinuxの採用を加速

OSDLは、開発者やLinuxディストリビュータが評価可能な技術情報として、「OSDL Carrier Grade Linux Requirements Definition, version (CGL 3.0)」を発表した。CGL3.0は、将来を見通した先進的な文書であり、OSDLは、同CGL3.0の要求定義に基づくソリューションが実現するのは、2006年中になると見込んでいる。

Intel Open Source Technology Centerの Business Development Managerであり、OSDLのCGLワーキンググループのChairであるAndy Wilson氏は、「Linuxは、新しいモジュラー型の通信プラットフォームの重要な要素で、より迅速に市場投入でき、コストを削減します。CGL3.0は、Linux開発者、機器設計者ならびにディストリビュータが、将来の製品の機能、性能および有用性のための技術的な方向性を定めるものです」と語っている。現在OSDLは、CGL要求仕様に対応する製品を登録中である（OSDL

CGLの登録については、[http://www.osdl.org/lab\\_activities/carrier\\_grade\\_linux/registration.html/document\\_view](http://www.osdl.org/lab_activities/carrier_grade_linux/registration.html/document_view)を参照）。なお、CGL3.0は、以下の6つの機能分野に分かれている。

可用性 (Availability) : システム保守およびシステム拡張のためのダウンタイムをなくし、99.999%の可用性を目指す。オンラインでの運用、冗長性、モニタリング、および堅牢なソフトウェアを含む。

保守容易性 (Serviceability) : 遠隔での管理・モニタリングが可能。SNMP、CIM、WBEM、IPMI、HPIなどの運用標準をサポートする。

性能 (Performance) : システムは規定時間内にサービスを完了し、SMP、ハイパースレッド、大規模メモリーシステムをサポートし、効率的な遅延の少ない通信を提供しなければならない。

クラスター (Clusters) : 高可用性クラスター (HAC : High Availability Cluster) にスコープを限定し、ハードウェアおよびソフトウェア双方におけるシングルポイント障害を排除する。

標準 (Standards) : Linux Standard Base (LSB)、SA Forum interface specification、POSIXなどの業界標準や、相互運用性を促進するためのその他の標準に準拠する必要性を定義する。

ハードウェア (Hardware) : 標準ベースでモジュール型の民生品の (COTS : commercial-off-the-shelf) ハ

ードウェアコンポーネント。ホットスワップブレードや、スループットの高いインターコネクションなど、ホットスワップコンポーネントのサポートを含む。

### エンタープライズでの採用を支援する 「DCL 1.1」と「DTL 1.0」を発表

またOSDLは、DCLの新しい機能要求定義「OSDL Data Center Linux Capabilities version1.1 (DCL1.1)」と、DTLでは最初の機能要求定義である「Desktop Linux Capabilities, version 1.0 (DTL 1.0)」を発表した。

DCL1.1は、2004年2月に発表したDCL1.0に関する優先順位を拡張したものである。OSDLは、一般のLinuxユーザー、ベンダー、開発コミュニティに共通して重要であるテクノロジー分野（セキュリティ、ホットプラグ、クラスタリング、ストレージ）を特定して、分野ごとにSIG (Special Interest Group) を結成した。このSIGがさまざまな情報を収集して、ユーザー、ベンダー、開発コミュニティに共通した機能要求を定義し、新たな重点項目も追加した。

一方「DTL 1.0」は、企業デスクトップユーザーの要件を検討した後、現行のOSDLメンバー企業により作成された。DTL 1.0は、4タイプ（オフィスワーカー、トランザクションワーカー、技術系ワークステーションユーザー、特定機能ユーザー）のデスクトップユーザーが持つニーズに対応する機能が定義されている。

## 第6回 IPv6 相互接続テストイベントを開催

### IPv6 のモビリティ機能など実利用に向けた検証を幅広く実施

インターネットプロトコルIPv6の検証・評価システムを開発しているTAHIプロジェクト(代表:東京大学江崎浩助教授)は、1月24日~28日の5日間、幕張メッセにて「第6回IPv6相互接続テストイベント」を開催した。本イベントには、日本国内外から36組織85名が参加し、IPv6実装機器同士の相互接続性を検証する相互接続性検証テストを、世界最大規模で実施した。また、同時にIPv6の仕様に準拠しているかどうかを検証する仕様適合性検証テストについても実施した。

TAHIプロジェクトは、WIDEプロジェクト(代表:慶應義塾大学 村井純教授)の中の1プロジェクトで、IPv6

の普及を目的として1998年に発足し、IPv6の最新技術および機能を、系統的・総合的に検証・評価する技術開発を行っている。本活動の成果は、迅速にフリーで公開しており、産業界および学术界へ貢献している。この結果、TAHIプロジェクトは、現在、IPv6の検証・評価に関する技術開発のリーダーとして、国際的な役割を果たしている。

相互接続性テストイベントは、TAHIプロジェクトの技術開発の成果を使用して、世界各国の企業あるいは研究組織がIPv6を実装した実際の機器を持ち寄り、互いの相互接続性を検証するための場を提供するもので、互いに他社製品との接続性を確認できるた

め、製品開発者あるいは研究者の開発支援の場として高い評価を得ている。

今回のイベントでは、IPv6のモバイル機能(Mobile IP、Network Mobility)、昨年からは開始したSIP機能、さらに、セキュリティで初めて鍵管理(Internet Key Exchange)機能など、実際の利用を前提に、よりアプリケーションに近い機能の検証・評価を幅広く実施した。

また、世界的な活動である「IPv6 Ready Logo」のフェーズ1認証取得のためのテスト、さらに近々申請受付が開始されるフェーズ2認証取得のためのテストにも多くの参加者が集まり、関心の高さをうかがわせた。

## ネットワーク・アプライアンス (03-5251-3747)

### オラクル社と共同で北京に共同ストレージ・ソリューション・センターを開設して

### アジアの企業ユーザー向けに信頼性と安全性に優れたストレージ・ソリューションを提供

ネットワーク・アプライアンス社(ネットアップ社)は、オラクル社とのグローバル・パートナーシップに基づき、北京に共同ストレージ・ソリューション・センターを開設した。今回の開設により、ユーザーとパートナーはベスト・プラクティスを活用して、オラクル社のソリューションを構成・実装し、生産性向上を短期間で実現できるようになる。

また、ネットアップ社のストレージ・システムを利用することで、オラクル社のユーザーは共通ストレージ・プラットフォームへのデータの統合、管理の簡素化とコスト削減を実現するソフトウェア・ツールの活用、迅速な

バックアップ/リストア機能による容易なデータ保護、企業内での容易なデータ共有が可能となる。

さらに本センターでは、中国のレッドフラッグ・ソフトウェア社、日本のミラクル・リナックス社、韓国のハーンソフト社が共同開発したアジアにおけるLinux標準オペレーティング環境である「Asianux」などのLinux環境の教育、研究、および開発に関するフォーラムも提供する予定である。現在、相互運用性とLinux標準の推進を目指して、オラクル社とネットアップ社が共同でAsianuxをサポートし、アジア全域でLinuxディストリビュータからの支援を獲得しつつある。アジア唯一

のLinux標準運用環境であるAsianuxに対し、ネットアップ社は全ストレージ・ソリューションの包括的な認証プロセスを開始している。

本センターの主なサービス内容は、検証やサポートを行うためにパートナーや顧客が利用できる最新設備、Oracle Real Application Clusters Accelerator for Linux、ストレージの査定/データ移行サービス、障害復旧/高可用ソリューションおよびサービス、オラクル社のキャパシティおよびパフォーマンス・サービス、オラクル社のテクニカル・アーキテクチャおよび実装サービスなど。

ミラクル・リナックス/日本ブロードビジョン (03-5404-5038 / 03-5774-0851)

## Linux 環境におけるエンタープライズWebアプリケーション分野で 戦略的提携を締結してアジア市場への拡販を促進

ミラクル・リナックスと、日本ブロードビジョンは、Linux環境におけるエンタープライズWebアプリケーション分野において戦略的提携を締結した。今回の提携は、日本市場でのビジネスを皮切りに、中国を含むアジア市場への販売拡大を視野に入れたもので、LinuxにおけるWebアプリケーション製品による、多彩なアプリケーションの導入による企業のLinux採用の促進を目指したものである。

本提携による成果の第一弾として、ミラクル・リナックスのLinux OS「MIRACLE LINUX V3.0 - Asianux Inside」上で、ブロードビジョンのWebアプリケーション・スイートが実

現できることが確認された。ブロードビジョンのWebアプリケーション・スイートは、プロセス、コマース、ポータル、コンテンツから成り、企業のビジネス要件を迅速にWeb上のシステムに展開することができるソリューションである。今後、両社は、それぞれのパートナー企業を含めた相互の技術支援や情報交換、トレーニング、共同の営業活動や共同セミナーの開催等のマーケティング活動を通して、提携の効果を高めていく予定である。

ミラクル・リナックスは、今回の提携により、UNIXシステムへの導入実績が多く、高い評価を誇るブロードビジョンの製品と連携して、Linuxによ

る大規模なWebアプリケーションシステムの構築を強化していく。さらに、高性能かつ信頼性の高いシステム環境と安定したサポートを提供することで、ミッションクリティカルな領域へのLinux導入や大規模なエンタープライズLinux市場の開拓と、UNIXからLinuxへの移行を支援していく。

一方ブロードビジョンは、本提携によるLinux市場での本年度の売上目標を5億円と設定し、中国のレッドフラッグ社、韓国のハーンソフト社とミラクル・リナックスが共同で開発するAsianuxへの対応を足がかりに、中国をはじめとするアジア市場への拡販を目指していく。

BMC ソフトウェア (E-mail : jp\_mktg@bmc.com)

## 業務プロセスの自動化を支援するプラットフォームの最新版 「Remedy Action Request System v6.3」の出荷を開始

BMCソフトウェアは、業務プロセスの自動化と管理を支援するアプリケーションプラットフォームの最新版「Remedy Action Request System v6.3」の出荷を開始した。Remedy Action Request Systemは、企業独自の業務フローやニーズに合わせて、シンプルなマウス操作でアプリケーション画面やワークフローを作成しながらアプリケーションを構築できるプラットフォームである。今回出荷を開始した最新版では、Web用画面上でのデータ登録・検索・変更やメニュー・テーブルへのアクセスのスピードアップの他、ツールバーや検索バーの追加など、Web上での操作性や機能性などが強化された。

Webユーザーのパフォーマンスが向上：Webサーバとアプリケーションサーバの中間に位置するMid-Tierサーバとクライアントの処理スピードが改善されたことで、Webユーザーのアプリケーションへのアクセススピードが向上し、Windowsユーザーと変わらない速さで処理ができるようになった。また、ネットワークへの負荷も軽減され、Webアプリケーションの拡張性がさらに向上した。また、Webからのデータ登録・検索・変更やメニュー・テーブルへのアクセスといった画面操作が速くできるようになった。

Webユーザー用画面のビューおよび使い勝手が向上：ツールバーや高度

検索用の検索バーの表示が加わり、テーブルのカラム位置の入れ替えや表示スペースの長さの調整がマウス操作でできるようになり、従来のRemedyユーザーツールのルック&フィールに近いWeb画面となった。また、CSS(カスケイドスタイルシート)を利用することで、詳細なユーザーインタフェースを設定することが可能となった。

Webアプリケーション構築がより容易に：Windowsビューでの定義をそのままWeb用に転用できるようになり、Webビューでの定義が不要になり、Webへの「デプロイ」プロセスも不要となった。

アドテックス (03-6717-5406)

## e 文書法や個人情報保護法に対応したストレージ集中管理を実現する 新製品「ArrayMasStor PHシリーズ」の販売を開始

シリアルATAストレージで国内トップシェアを誇るアドテックスは、価格容量比に優れたストレージの新製品「ArrayMasStor PH (アレイマスターピーエイチ)」の販売を開始した。

ArrayMasStor PHは従来製品である「ArrayMasStor P」の上位機種にあたり、19インチラック3Uサイズの筐体に、シリアルATAのHDD (ハードディスク) を16台実装し、最大容量6.4TB (テラバイト) を実現した製品である。ホストインタフェースは、Ultra160 SCSIを2本備え、ホストコンピュータと1対1で接続される用途に留まらず、複数のコンピュータからストレージを共有するクラスタリング

システムなど、多様な構成下での運用にも対応可能な設計になっている。また、製品の心臓部であるRAIDコントローラには、実績のある自社開発のP-ENGINE (P-エンジン) を使用し、構成や監視は、従来のアドテックスの製品と同様にAVC-Lソフトウェアにて行うことができる。また、接続性検証に関しても従来製品の資産を継承するなど、既に運用が行われている現行システムへの導入が、容易に行えるようになっている。

現在、ストレージ市場では大容量データのバックアップやアーカイビング (長期保存) 需要を中心に、費用対効果に優れたシリアルATAドライブを使

用したストレージが急成長している。その中で、アドテックスは2003年3月に他社に先駆けてシリアルATAインターフェースを応用した製品を出荷開始しており、IDCの調査では2004年上半年実績において国内では同様製品でのトップシェアを誇っている。

また、2005年4月に予定されているe-文書法、ならびに個人情報保護法の施行により、ストレージ資産の集中管理に対するニーズが高まるものと予想されているが、ArrayMasStor PHは、このような要求にも対応した製品となっている。

アイログ (03-5211-5770)

## OSS/J や JSE などの最新の Java 技術標準と BPM 標準をサポートした 視覚化製品の最新版「ILOG JViews 6.0」を発表

アイログは、同社の視覚化製品の最新版「ILOG JViews 6.0」の出荷を開始した。本製品は、JViews Gantt、JViews Maps、JViews Diagrammer、JViews Charts、JTGOの5つの製品を含む製品群である。従来のILOG JViewsに含まれていた各モジュールの機能を個別に求める市場の声に応えて、本製品では単独製品としても提供している。また5製品全てに、開発プロセスがガイダンス表示される画面エディタ「Designer」が新しく標準装備されたことにより、開発者がGUI (グラフィカル・ユーザ・インタフェース) の開発や構成を、より簡単かつ迅速に行えるようになっている。さらに、

最新のJava技術標準をサポートし、Webクライアントの短期開発を可能にして、ビジネスにおける意思決定の柔軟性とスピードを向上させている。このような特長により、本製品を活用することで、GUIの開発工数が、作りこみの場合と比べて50~80%短縮が可能 (アイログの調査データより) である。さらに、作成されたGUIによって、業務担当者は膨大なデータを理解しやすくなり、その管理も容易に行えるようになる。

そして今回から、視覚化製品として業界で初めて、BPMN (ビジネス・プロセス・モデリング表記) のサポートも実現した。BPMNは、ビジネス・ブ

ロセスに関する標準化団体「BPMI (ビジネス・プロセス・マネジメント・イニシアティブ)」が公表する新しい標準で、BPMにおいてビジネス・プロセスの設計と実装間のギャップを埋めるものである。同標準の採用により、プロセスの初期ドラフトを作成するビジネスアナリストから、プロセスの技術実装に責任を持つIT技術者、さらにそれらのプロセスを管理する業務担当者まで、全てのビジネスユーザーが簡単に理解できる表記が提供される。そしてBPMNを使用したソリューションでは、ビジネス・プロセス全般にわたる鮮明度、協調性、制御を大幅に向上することが可能である。

沖電気 (0120-654-632)

## フルカラー毎分30枚で20万円を切るA3カラーページプリンタなど ビジネスカラープリンタの新ラインナップ「OKI C series」3機種を同時発売

沖データは、ビジネスドキュメントの出力に最適化した新たなカラーページプリンタ「OKI C series」3機種 (C9150dn/C5200n/C3100) を1月19日より発売開始した。

同社はこれまで日本市場において、ビジネス市場からDTP市場まで幅広い市場に向けた商品を「MICROLINE」ブランドとして展開してきた。しかし、一般オフィス市場におけるカラーページプリンタ需要の拡大と急速な低価格化の流れを踏まえ、ビジネスカラープリンタとしての最適性能・最適価格を追求した新商品ラインナップ「OKI C series」を発売することとしたもの。

今回の製品は、他社最上位機並みの

フルカラー30ppmという印刷速度を持ち、かつイーサネットボード・両面印刷機能までも標準装備しながら税込20万円を切る価格を実現したA3対応の「C9150dn」、クラス最高速かつネットワークインタフェース標準装備で10万円を切る価格(税抜き)を実現したA4対応「C5200n」、パーソナル向けに低価格化を実現したUSB2.0接続のA4対応「C3100」の3機種。

いずれの製品も独自の4連デジタルLEDヘッドによるシングルパスカラーテクノロジーを採用し、一般オフィスやSOHOでのビジネスユースに求められる高速印刷を実現したほか、ビジネス文書に適した濃度に色を自動調整す

る「オフィスドキュメントモード」を採用することで、トナー量を抑えて見やすい色合いでの印刷を可能にしている。

同社では、今回新たに市場投入したOKI C seriesは「Best Quality, Best Price.」をコンセプトに掲げ、今まで培ってきた商品のクオリティは一切落とすことなく、思い切った価格を設定した戦略商品として位置づけている。同社では本製品によって今後ビジネス市場での飛躍的な拡販に挑戦していくとしている。

パトライト (0729-48-9600)

## コンピュータネットワークの回線・機器の異常や障害を知らせる ネットワーク対応シグナルタワー「ネットワーク監視表示灯」NH型を発表

オフィスや公共施設、工場など、急速にLAN化が進む中で、ネットワークの回線や対応機器の異常・障害の通知は、管理用パソコンの画面上に現れるというものがほとんどである。そのため、システム管理者は常に管理画面に拘束されたり、他業務を行っている場合は、異常・障害の認識が遅れることが多々あり、多くの企業から「簡単にパトライトなどで異常や障害を知りたい!!」との声があがっていた。

この声に応えて、情報表示機器のトップメーカーであるパトライトは、コンピュータネットワークの回線・機器の異常や障害を音や光、Eメールで管理者に知らせるLAN (Ethernet) 対応

型の「ネットワーク監視表示灯」ネットワークシグナルタワー (NH型) を発表した。このネットワーク監視表示灯を活用することで、次のようなソリューションを実現することができる。

簡単なリモートシェル (RSH) コマンドやSNMPのプロトコルにも対応しているため、ほとんどのネットワーク統合管理・監視ソフトと簡単に連携・連動することができる。

ICMP (Ping) で最大16の機器や接続される回線の死活状態を監視することができる。また、EメールやSNMPのTrapを用いて管理者に知らせることもできる。

情報漏洩防止製品との連携で、漏洩



の発生を周囲や管理者に知らせることができる。また、検知時に監視表示灯が連動することで抑止効果が高まり、漏洩事故の未然防止環境を実現できる。

その他、一般的で簡単なコマンドでも制御できるので、様々な監視・通報・運用ソリューションが可能である。